

スウェーデン 分科会スピーチ オーラさん

1

こんにちは。オーラ・イエクストランド・ムティエンです。

私はスウェーデンのヨーテボリという街から来ました。

私はグルンデン協会のカフェのレジを担当しており、理事会のメンバーでもあります。

2008年、スウェーデンは国連の障害者権利条約を承認、批准しました。

2

これはスウェーデンが、障害のある人々の社会に完全参加することができるよう働きかけることに尽力することを意味します。

スウェーデン政府は社会やすべての社会の機能が障害のある人たちにとって参加・利用可能であるために必要なことを行っていかなければなりません。

権利条約の第19条は：

3

すべての障害のある人に、どこで誰と暮らしたいかを選ぶ権利が、ほかの人と同等にあること。

誰も特別な生活の仕方をもつ場所に住むことを強制されないこと。

さらにはすべての障害のある人に、社会の一員として完全参加をしたり、一緒に暮らしたい人を選ぶよう必要な支援をうける権利があること。

一般の人にむけて提供されている全てのサービスや、一般の人に向けて開かれているすべての活動は障害のある人にとっても利用・参加可能でなければならないこと。

4

これはつまり、人間は入所施設に無理やり住まわされることはできないということです。

19条はスウェーデンの政府、国会、市町村や都道府県が、障害のある人の社会への完全参加（社会の一員として地域で暮らすこと）のためにすべきことを教えてくれています。

しかしスウェーデンの社会でも完全な社会参加や開かれた社会からはまだ程遠いです。

5

スウェーデンにはLSS法、「特定の障害のある人のための支援やサービスについての法律」があります。

人々に様々な支援サービスを提供することでほかの人と同じように人生を生きる機会を与える、障害のある人たちの権利を守る法律です。

これは障害のある人の社会への完全参加のための法律であること、また支援サービスを計画する際には、当事者自身が大きな影響力を持っていることが大切であることがLSS法の中に書かれています。

また、当事者のプライバシーや自己決定を尊重することが大切であるともLSS法には書かれています。

6

スウェーデンでは大型の入所施設をつくることは禁止されています。

スウェーデンにはまた差別禁止法もあり、障害を理由にほかの人よりも劣った扱いをされることは禁止されています。

少し前から社会参加のための公的機関もあります。

市町村やその他の公的機関、組織、に対して調査やアドバイスを行っており、社会での様々な活動に、全ての人に参加できるような機会が増えるようにしています。

社会庁とIVO、「医療福祉の調査機関」は国の機関で、LSS法で決められている様々な施設に対してLSS法を守って仕事をしているか調査をしています。

IVOはまた、市町村が守らなければならない助言や推奨などの文書を出したりもしています。

7

でも、これらの法律や助言・推奨、公的機関があるにも関わらず、スウェーデンの障害のある人たちは、自分たちの生活に制限があって、開かれていないと感じています。

政府や市町村、公的機関から新しく出てくる決定、助言や推奨、そのやり方が私たち障害のある人間を社会参加や影響力をもつことから遠ざけていくばかりで、まるでそれが権力をもつ機関が望んでいることのように思えてきます。

8

IVO はすべての市町村が IBIC「個別必要性重視型（直訳）」と呼ばれる方法を使って仕事をすることを決めました。

これは福祉事務所の職員が障害のある人に良いサービスを提供すること、当事者の声を重要視し、当事者が話し合いに参加することなどについての説明が書かれた分厚い本です。

しかしこの方法はあまりにも素早くいきあたり、きちんと理解されないまま使われ始めてしまいました。福祉事務所の職員に知識が足りていない場合、この IBIC は当事者に自由を与えるのではなく、制限を設けてしまいます。

私たちはこの状況を変えるために働きかけていかなければなりません。

9

私はヨーテボリでサービス利用者監査人（直訳）として働いています。

グループホームに出向いて、そこに住む当事者と話をし、そこでの生活やすみごちがどうなのかを調査する仕事です。

だから私は、当事者の暮らしている場所で、当事者が参加して自分の意見を重要視されながら暮らすことができていないことを知っています。

グルンデンでは19条の内容を「毎日の暮らしの中の人権」と呼んでいます。

グルンデンでは、毎日の暮らしの中での当事者の自己決定の権利の話が注目されるよう働きかけています。

毎日の暮らしの中とは、住んでいる場所、学校、働いている場所、プライベートの時間などもです。

この活動はさまざまなアクティビティやプロジェクトを用いて行われます。

今グルンデンでは Leva Livet（人生／暮らし／生活 を生きる）というプロジェクトを進めており、これはグループホームで生活をしている人たちに向けたものです。

10

このプロジェクトでは、当事者の権利、それが毎日の暮らしにどうつながっているのかについての知識を提供しています。人々が自分の毎日の暮らしを本当の意味で自分のものとして、自分の人生を生きていけるようにするのです。

人々の出会いの場も提供しています。

そのための場所がグルンデン・グランドバザールです。

ヨーテボリの中心地にあるカフェと出会いの場です。

この場を訪れる当事者の希望や要望に合わせていろいろな形の活動を行っています。

私たちは人々の出会い、つながり、その関係性は、人生にとってかけがえのないものだと強く信じています。社会で日々生活していく中のいろいろな場面で人々は、自分がそこにいること、そこに自分の居場所があることを感じられるべきだからです。

これは *Leva livet*, 自分の人生を生きられるようになるための最初の段階での大切なものです。

人とのつながり、関係、それをもとに得てきたものが存在しない人生なんて、一体どんなものなのでしょう。

11

だから私たちは、職員が、つながり、関係性、それが生み出すものについて学び、考えながら働いていくことがとても大切だと考えています。

19条に書かれていることが本当になるまでの道はまだ遠いです。

たくさん前に進んできたスウェーデンでもまだ先は長いのです。

これは、私たち全員が当事者の完全参加に向けて努力し続けていかなければならないということです。

そのために、グルンデンやピープルファーストなど、人々が集まって活動をするグループがあることはとても大切です。

12

そして私たちがこうして出会い、お互いの歴史について伝えあい、経験を学びあい、そしてこれからも出会い続け、つながりを持ち続けていくことが大切です。

たった一人では何も変わりません。

私たちみんなで変化を作るのです。

ありがとうございました。